

◇目次

1 「認知症ケアパス」ってなに？	3
2 認知症とは	5
3 「認知症」早期発見のめやす	6
4 認知症の方への接し方	8
5 認知症による「もの忘れ」と加齢による「もの忘れ」	9
6 認知症の方の様子の変化と家族の心構え	10
7 認知症の状態に合わせて利用できる支援の一覧表	12
8 相談窓口一覧	14
9 認知症サポーター養成	16
10 認知症に関連するホームページ等の紹介	17



1 「認知症ケアパス」ってなに？

「認知症ケアパス」は、認知症発症の前ぶれや発症したときから、進行状況に合わせていつ・どこで・どのような支援（医療・介護サービス・地域の支え等）を受ければよいかを、地域の実状を反映させてわかりやすく示したものです。逆に、認知症を支えるサービスとして何が不足しているかも推し量ることができます。

この冊子を手にとられた皆様、「認知症の方やその家族が安心して暮らしていくためにどうすればよいか、いま何が足りないのか」を共に考え、足りないものを補い合える深浦町に育てていきましょう。

そうすることで、皆さん自身が将来暮らしやすいまちに発展していくのではないのでしょうか。

ところで、皆さんは「認知症」という言葉を聞いて、どんなイメージを持ちますか？

「自分のことが自分でできなくなる」「施設に入らないと生活できない」と考えている方もいるのではないのでしょうか？

しかし、認知症と上手に付き合うことができれば、自宅での生活を安心して継続できる場合も少なくありません。一方、「認知症の初期の段階を見過ごし、症状が進行してから受診する」という悪循環に陥る方がいることも事実です。

2012年公表された厚生労働省研究班の資料によると、65歳以上の高齢者のうち認知症を発症されている方は462万人（65歳以上人口の約15%）、認知症の前段階である「軽度認知障害（MCI）」の方は400万人いると推計されています。つまり、65歳以上の4人に1人は“認知症またはその予備軍”となり、身近な病気と言っても過言ではありません。

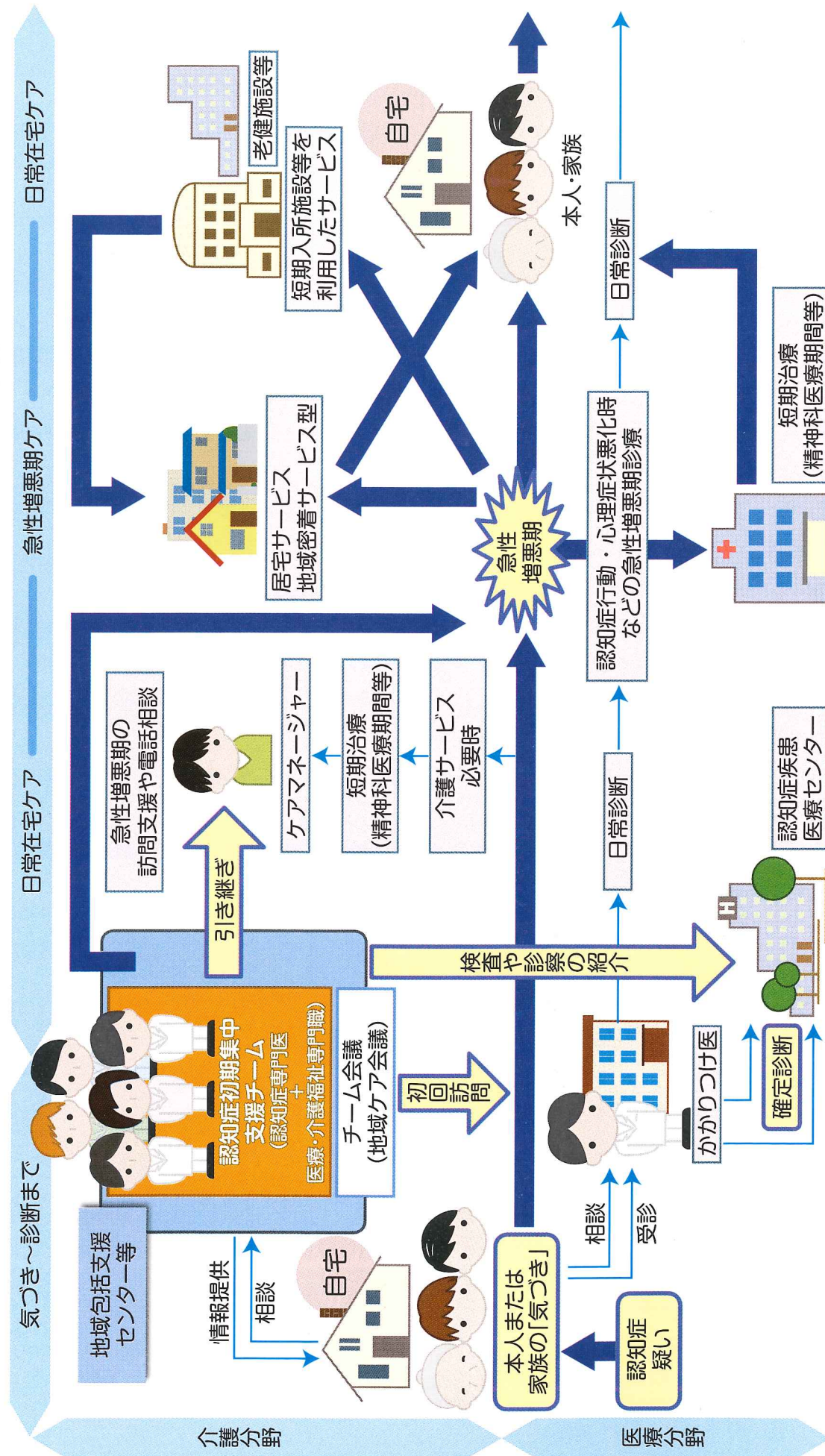
※2015年1月に厚生労働省が発表した資料によると、2025年の認知症の方は、現状の約1.5倍となる700万人を超えると推計されています。これにMCIの方、600万人を加えると、約1,300万人となり、65歳以上の3人に1人が認知症患者とその予備軍といえることになりそうです。

【深浦町の現状】（平成28年9月30日現在）

要介護等認定者数		重度 ↑ ↓ 軽度	要介護等認定者の認知症自立度別人数	
要介護5	66人		M	6人
要介護4	89人		Ⅳ	40人
要介護3	109人		Ⅲb	28人
要介護2	123人		Ⅲa	153人
要介護1	177人		Ⅱb	153人
要支援2	32人		Ⅱa	66人
要支援1	107人		I	134人
計	703人		自立	123人
			計	703人

標準的な認知症ケアパスの概念図

～住み慣れた地域で暮らし続けるために～



2 認知症とは

認知症は、誰でもかかる可能性がある「脳の病気」です。

いろいろな原因で脳の細胞の働きが滞ることで、様々な障がい（認知障害）がおこり、生活に支障が出ている状態です。

認知障害を引き起こす、代表的な認知症としては以下の4つがあります。

①アルツハイマー型認知症

脳内で異常なたんぱく質が作られ、脳の神経細胞の働きが少しずつ失われるとともに、脳が委縮していき、脳の機能が全般的に低下していきます。

- もっとも多いと考えられている認知症で、進行がゆっくり
- 「もの忘れ」から始まるため、発見が遅れやすい
- ニオイに鈍感になりやすいため、腐った食べ物に気づきにくい
- 事実と異なることを話すこと（作話）がある

②脳血管性認知症

脳血管疾患（脳梗塞や脳内出血など）がおきた部分の脳の神経細胞の働きが失われることで発症します。

- 高血圧等動脈硬化の危険因子を持つ男性がなりやすい
- 気分の落ち込みや意欲低下がみられやすい
- 泣きやすくなるなど、感情が制御しにくい

③前頭側頭型認知症

脳の前頭部や側頭葉が委縮することで起こります。会話中に突然立ち去る、万引きするなど性格変化や社交性の欠如が現れます。

- 幼児のように、行動に抑制が利かなくなる
- 同じ行為を繰り返したり、不潔をいとわなくなる
- 50歳代から発症することがある
- 記憶力は比較的保たれる

④レビー小体型認知症

レビー小体という物質が脳の脳大皮質にたまることが原因で起こります。認知障害に加え、幻視（現実に見えないものが見える）やパーキンソン病に似た症状などが現れます。

- 子どもや動物、昆虫など生々しい幻視が現れる
- 睡眠中に大声を上げたり、バタバタしたりする
- 歩行が小刻みで、転びやすくなる

認知症の多くは、「もの忘れ」から始まります。また、認知症は、引き起こしている原因によって、症状や治療法・薬が異なるため、専門医等での早期受診・早期診断が非常に大切となります。

3 「認知症」早期発見のめやす

①家族がつくった「認知症」早期発見のめやす

日常の暮らしの中で、認知症ではないかと思われる言動を、「認知症の人と家族の会」の会員の経験からまとめられたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中での目安として参考にしてください。

いくつか思い当たることがあれば、相談機関や医療機関に相談してみることがよいでしょう。

また、ご本人だけの相談・受診では、家庭の中で起きていること・困っていることが伝わりにくいものです。ぜひ、ご家族も同行してください。

●もの忘れがひどい

- ☐ 1 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- ☐ 2 同じことを何度も言う・問う・する
- ☐ 3 しまい忘れ置き忘れが増え、いつも探し物をしている
- ☐ 4 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

●判断・理解力が衰える

- ☐ 5 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- ☐ 6 新しいことが覚えられない
- ☐ 7 話のつじつまが合わない
- ☐ 8 テレビ番組の内容が理解できなくなった

●時間・場所がわからない

- ☐ 9 約束の日時や場所を間違えるようになった
- ☐ 10 慣れた道でも迷うことがある

●人柄が変わる

- ☐ 11 些細なことで怒りっぽくなった
- ☐ 12 周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- ☐ 13 自分の失敗を人のせいにする
- ☐ 14 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

●不安感が強い

- ☐ 15 ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- ☐ 16 外出時、持ち物を何度も確かめる
- ☐ 17 「頭が変になった」と本人が訴える

●意欲がなくなる

- ☐ 18 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- ☐ 19 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- ☐ 20 ふさぎ込んで何をするのも億劫がりいやがる

②認知症初期症状質問票

最近1か月の状態について、日々の様子から判断し、当てはまる項目の数を数えます。

4項目以上当てはまれば受診をお勧めします。

ただし、12番・13番のうち1つでも当てはまる場合4項目以上当てはまらなくても受診をおすすめします。

- ☐ ① 同じことを何度も話したり、尋ねてくる
- ☐ ② 出来事の前後関係がわからなくなった
- ☐ ③ 服装など身の回りのことに無頓着となった
- ☐ ④ 水道やドアの閉め忘れや物事の後片付けがきちんとできなくなった
- ☐ ⑤ 同時に2つの作業を行うと、1つを忘れる
- ☐ ⑥ 薬を自分で管理して、正確に服用することができなくなった
- ☐ ⑦ 以前はテキパキできていた家事や作業に手間取るようになった
- ☐ ⑧ 計画を立てることができなくなった
- ☐ ⑨ 複雑な話を理解できない
- ☐ ⑩ 趣味など、以前は前向きに取り組んでいたことへの興味が薄れたり、やめたりした
- ☐ ⑪ 以前よりも怒りっぽくなったり、疑い深くなった
- ☐ ⑫ 被害妄想（お金を取られるなど）がある
- ☐ ⑬ 幻視（無いもの・居ないものが見えるなど）がある

③脳血管性認知症の質問票

日々様子から判断し、当てはまる項目の数を数えます。

2項目以上当てはまれば、脳血管性疾患または脳血管性認知症の疑いもあるので受診をお勧めします。

- ☐ ① 動作が緩慢になった
- ☐ ② 悲観的である
- ☐ ③ やる気がない
- ☐ ④ しゃべるのが遅く、言葉が不明瞭
- ☐ ⑤ 手足に麻痺がある
- ☐ ⑥ 食べ物・飲み物を飲み込みしにくく、むせることがある
- ☐ ⑦ 感情のコントロールができなくなった
- ☐ ⑧ 物事を考えることが鈍く、返答が遅い

4 認知症の方への接し方

認知症の症状が進むと、段取りを整えることがうまくできなくなり、「今まで行えていたことが行えない」といったことが増えてきます。また、認知症による「もの忘れ」（言われても思い出せない等）が重なると、自分の変化に漠然とした不安を感じ始めます。

認知症の方と接する際には、「誰よりも心配し、苦しみ、悲しんでいるのは本人」であることを考えながら、感情を傷つけずに接するよう心掛ける必要があります。

◇認知症の方への対応の心得

- ①驚かせない
- ②急がせない
- ③自尊心を傷つけない

◇具体的な対応のポイント

①まずは見守る

→認知症と思われる人を見かけたら、本人や周囲の人に気づかれないように、一定の距離を保ち、さりげなく様子を見守ります。近づきすぎたり、ジロジロ見たりするのは禁物です。

②余裕をもって対応する

→こちらが困惑や焦りを感じていると、相手にも伝わって動揺させてしまいます。自然に接するよう心掛けましょう。

③声をかけるときはひとりで

→複数で取り囲むと恐怖心をあおりやすいので、できるだけひとりで声をかけます。

④後ろから声をかけない

→一定の距離で相手の視野に入ったところで声をかけます。

「何かお困りですか？」「お手伝いしましょうか？」「こちらでゆっくりどうぞ」など。

⑤相手に目線を合わせて

→相手が小柄な体格であれば、体を低くして目線を同じ高さに合わせます。

⑥おだやかに、はっきりした滑舌で

→高齢になると聴力が低下することが多いので、ゆっくり・はっきりとした滑舌を心掛けましょう。お国ことばでコミュニケーションをとることも大事ですが、早口・大声・甲高い声は禁物です。

⑦相手のことばに耳を傾けてゆっくり対応する

→認知症の人は急かされると出来ることもできなくなってしまいます。また、同時に複数の問いに答えることも苦手です。相手のことばをゆっくり聴き、何をしたいのかを相手のことばを使って推測・確認していきます。

5 認知症による『もの忘れ』と加齢による『もの忘れ』

認知症は、決して他人事ではなく、年をとれば誰にでも起こり得る身近な病気です。現在、認知症を完治させる薬や治療法はありませんが、早期に発見して治療を始めれば、病気の進行を緩やかにし、本人や家族の望む生活を続けやすくなります。そのために重要なのが、『早期発見・早期治療』です。気になる行動に気づいたら、あなたのことをよく知っているかかりつけ医や認知症サポート医に相談してみましょう。

認知症による『もの忘れ』		加齢による『もの忘れ』
体験したことすべてを忘れてしまう	⇔	体験したことの一部分を忘れる
体験したこと自体を忘れてしまいます。		食事の内容など体験の一部を忘れることがあります。
もの忘れの自覚がない	⇔	もの忘れの自覚がある
忘れていること自体に気づきません。また、ヒントをもらっても思い出せません。		忘れっぽいことを自分でわかっています。ヒントがあれば、思い出せます。
日時・人・場所がわからなくなる	⇔	日は多少間違えても、月は間違えない人・場所は覚えている
月日や家族、自宅の場所などがわからなくなります。		家族や自宅の場所を忘れることはありません。
性格が変わる	⇔	性格に大きな変化はない
頑固さや怒りっぽさが目立ってきます。		態度や人格に変化はありません。
日常生活に支障がある	⇔	日常生活に大きな支障はない
普段生活するうえで、様々な支障が生じます。		時間はかかりますが、日常生活を送ることができます。

6 認知症の方の様子の変化と家族の心構え

認知症は緩やかに進行し、症状が変化していきます。

下記の症状はあくまで一例です。家族や周囲の人が認知症を理解し、進行に合わせて上手に対応していくことが大切です。

		気づきの時期 (変化が起き始めた時)	発症した時期 (日常生活で見守りが必要)	症状が多発する時期 (日常生活に手助けが必要)
本人の様子	会話など	- 約束を忘れることがある - いつも「あれがない」「これがない」と探している	- 時間や日にちがわからなくなる - 同じことを何度も言ったり聞いたりする	- 電話の対応や訪問者の対応がひとりでは難しくなる - 文字がスムーズに書けなくなる
	食事調理	食事の内容を忘れることがある	- 食事をしたことを忘れる - 調味料を間違える - 同じ料理が多くなる	- 電子レンジが使えなくなる - 鍋を焦がすことが多くなる - 同じ食材を買い込む
	着替え		- 同じものばかり着ている - ボタンを掛け違えている	- 入浴を嫌がる - 衣服の選択ができない
	金銭管理 買い物	お金の管理や書類作成はできる	- 買い物で小銭が使えない - 町内会費を何度も持つてくる - 通帳など貴重品の保管場所がわからなくなる	- 同じものばかり買う - 財布や通帳を盗まれたなどの被害妄想がある
	服薬 排泄 など	たまに薬の飲み忘れがある	- ごみ出しができなくなる - 回覧板が回せなくなる	- たびたび道に迷う - 薬の飲み忘れが目立つ - 失禁で汚れた下着を隠す
本人の思い		- これからどうなるのか不安なとき - 周りから急かされたり「しっかりして」と言われるとつらい	- できないことも増えるが、できることもたくさんあることを知って欲しい - できないことで一番困ることは新しい場所にひとりでは行けないこと、時間の感覚がないこと	
家族の心構え		- 家族や周りの人の「気づき」がとても大事な時期 - 何か様子がおかしいと思ったら、かかりつけ医やサポート医・包括支援センターに相談を！ - 認知症サポーター養成講座などで認知症に関する正しい知識や理解を深めておきましょう！ - 本人の不安に共感しながら「さりげない手助け」を！ - できないことや間違いがあっても責めたり否定したりしないようにしましょう - 火の不始末や道に迷うなどの事故に備えて安全対策を考えておきましょう - ひとりで抱え込まず身近な人に理解してもらいましょう - 今後の生活設計について話し合っておきましょう - 同じ介護を体験する家族の集いにも参加するとよいでしょう		

認知症と診断されても、あわてて騒がないことが大事です。

本人も戸惑い、混乱している場合が多いので、ゆっくり・あたたかく見守っていきましょう。

心身の障害が複合する時期 (常に手助け・介護が必要)	心身の複合した障害が更に進行した時期
- 質問に答えられない - 会話が成立しなくなる - 家族の顔や名前がわからなくなる	表情が乏しくなる
- 食べ物でないものを口に入れる - 料理が作れなくなる	- 家事介助が必要となる - 飲み込みが滞る - 誤嚥や肺炎を起こしやすい
- 着替えができなくなる - 季節や場所に合わない服装をする - 夏場でも重ね着をする	
- 灯油を注文できなくなる - 買い物に行けなくなる - テレビのリモコンが使えない	
- 自分がいる場所がわからなくなり、家に戻れなくなる - 認知症という事実を拒絶 - 受診したがない - 昼夜が逆転する - 夏場でもストーブをつける	- 尿や便の失禁が増える - 寝たきりになる
- 症状がかなり進んでも「何もわからない人」ではない！ - 言葉で自分の状態を表現できなくても顔や表情から、快・不快を読み取ってほしい	
- 食事、排せつ、清潔などの支援が必要になり、合併症が起きやすいことを理解しましょう - どのような終末期を迎えるか家族間でちゃんと話し合い、決めておきましょう - 一人で抱え込まずに、介護や医療の制度・サービスを利用しましょう	

7 認知症の状態に合わせて利用できる支援の一覧表

深浦町では、認知症の方や介護する家族などを支援する体制の充実を推進していきます。

認知症の状態に合わせて、介護保険サービスや医療サービス、地域の協力を上手につないでいきましょう。

	気づきの時期 (変化が起きた時)	発症した時期 (日常生活で見守りが必要)	症状 (日常生活に手助けが必要)	が多発する時期 (日常生活に手助けが必要)	心身の障害が複合する時期 (常に手助け・介護が必要)	心身の複合した障害が 更に進行した時期
相 談	地域包括支援センター・認知症疾患医療センター・ケアマネジャー			ネーチャー・認知症の人と家族の会・各種電話相談(連絡先:14ページ)		
予 防	各種健康づくり事業・一般介護予防事業					
	公民館等サークル活動・老人クラブ			通所リハビリなど)		
医 療	かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局			・認知症サポート医・認知症疾患医療センター		
				訪問看護・精神科(外来・急性増悪期の一時的入院)		
介 護				介護サービス(デイサービス・通所リハ・訪問介護・訪問看護・ショートステイ)		
生活支援 家族支援 安否確認 権利擁護	緊急通報(福祉安心電話)・配食サービス・日			常生活福祉用具給付・ひとり暮らし高齢者等見守り隊		
				紙おむつ等介護用品の支給・家族介護者交流会		
	民生児童委員・ほのぼのの交流員・老人ク			ラブ・認知症サポーター・認知症の人と家族の会		
住 ま い	日常生活自立支援事業			成年後見制度		
	養護老人ホーム			グループホーム・老人保健施設		
	自宅・公営住宅・民間住宅・有料			老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅		

☆「こんなものがあればいいな…」を「住民力」で解決!

取り組むあなたを行政は全力サポートします。

例えば…

ドッグランや猫カフェ併設の
「町民オープンカフェ」



いろんな動物で癒される
「アニマルセラピー基地」



広い畑はもう無理…
でも小さい畑なら!
「町民レンタル農園」

8 相談窓口一覧

「認知症かも…」と気になっても、なかなかまわりの方に相談できないことがあるかもしれません。しかし、ひとりで悩んだり、ご家族だけで対応するだけではなく、いろいろな機関を積極的に活用して、ご本人に最適な方法を考えていきましょう。

(相談受付については、各機関とも祝日・年末年始を除きます。)

◇行政等相談窓口

福祉課介護保険係	介護保険申請・各種介護保険サービス・高齢者福祉サービスに関する相談 ☎ 0173-74-2117 受付時間：平日 8:15-17:00
深浦町地域包括支援センター	高齢者の保健・医療・福祉に関する総合的な相談窓口 ☎ 0173-74-4421 受付時間：平日 8:15-17:00
深浦町地域包括支援センター (ブランチ)	同上(主に岩崎地区) ☎ 0173-77-2020 (サンタ園在宅介護支援センター) 受付時間：平日 8:15-17:00
深浦町地域包括ケアセンター	同上(主に大戸瀬地区) ☎ 0173-76-2042 受付時間：平日 8:15-17:00
深浦町社会福祉協議会	福祉に関する総合的な相談窓口 ☎ 0173-74-3111 受付時間：平日 8:15-17:00
五所川原市消費生活センター	特殊詐欺・悪質商法など消費生活に関する相談 ☎ 0173-33-1626 受付時間：火～金曜日 9:00-17:00 土曜日 10:00-16:00

◇認知症対応型共同生活介護

グループホーム しらかみのさと	関字小島崎58-3	☎ (0173) 84-3535
グループホーム いちえ	沢辺字吉花102-27	☎ (0173) 77-2210
グループホーム トント園	岩崎字松原 57-6	☎ (0173) 77-3848
グループホーム はまなす	麩木字津山91	☎ (0173) 74-3855
グループホーム ひかりの里	風合瀬字大磯195-16	☎ (0173) 82-0326
グループホーム サニーライフ	柳田字桜田34-5	☎ (0173) 76-3666
グループホーム ユリの花	深浦字吾妻沢13-1	☎ (0173) 84-1137
グループホーム 三愛園	関字栃沢80-9	☎ (0173) 76-3112

◇認知症疾患医療センター

認知症を早期に発見し、適切に診断・治療を行うことで本人・ご家族が地域で安心して生活できるよう地域の関係施設と連携しながら支援する医療機関です。

認知症疾患医療センター つがる西北五広域連合 つがる総合病院	五所川原市岩木町12-3 ☎ (0173) 35-8753 月～金曜日 10:00～15:00
-----------------------------------	---

◇もの忘れ外来(認知症の人と家族の会ホームページより)

藤代健生病院	弘前市藤代2丁目12-1	☎ (0172) 36-5181
弘前大学医学部附属病院	弘前市本町53	☎ (0172) 33-5111
十和田市立中央病院	十和田市西十二番町14番8号	☎ (0176) 23-5121
社会法人慈恵院 青森森病院	青森市大谷字山ノ内16-3	☎ (017) 729-3330
えびな脳神経クリニック	青森市緑2-1-3	☎ (017) 735-3000
東八戸病院	八戸市大久保字西ノ平25-440	☎ (0178) 32-1551
八戸市民病院	八戸市田向字毘沙門平1	☎ (0178) 72-5118
於本病院	八戸市大工町10	☎ (0178) 43-4647

◇公益社団法人 認知症の人と家族の会

青森県支部	八戸市鮫町字居合1-3	☎ (0178) 34-5320 水・金曜日13:00-15:00
本部	京都市上京区堀川通丸太町下ル 京都社会福祉会館内	☎ (0120) 294-456 月～金曜日10:00-15:00

◇若年性認知症総合支援センター(無料相談。ただし通話・通信料は相談者負担。)

若年性認知症 総合支援センター	青森県 八戸市尻内町島田13-1	☎ (0178) 38-1360 月～木 9:00-16:00 メール：jyakunen@kokorosukoyaka.org
--------------------	---------------------	---

電話を掛けるときのポイント

◎まず、ご自分の名前を伝えましょう。

例) 「〇〇とありますが、、、」

◎用件を伝えましょう。

例) 「認知症の方の介護について相談があります。」

◎再度電話するときのために、相談にのっていただいた方の名前を控えておくとういでしょう。

いつも同じ方が電話に出るとは限らないので、相手の名前がわかっていれば、スムーズにつながりやすくなります。

9 認知症サポーター養成

“認知症サポーター”とは、「認知症サポーター養成講座」を受講し、認知症についての基礎知識や対応の仕方などを学び、認知症の人やその家族を地域で温かく見守る応援者（サポーター）のことで、誰でもなることができます。

認知症になっても安心して暮らせるまちをみんなでつくっていくために、より多くのサポーターが必要です。皆さまからの認知症サポーター養成講座の開催申し込みをお待ちしております。



【認知症サポーター養成講座】

◇実施方法：下記申込先へご連絡くだされば、講師を派遣します

◇内容：認知症に関する基礎知識、認知症の人への対応の仕方など

◇所要時間：概ね60分～90分

◇受講料：無料

◇講師：認知症キャラバン・メイト

※下記の施設等では認知症キャラバン・メイトを配置し、認知症の方を支えています。

①深浦町社会福祉協議会

②深浦町地域包括支援センター

③はくしん会（サンタ園在宅介護支援センター・白寿の郷デイサービスセンター等）

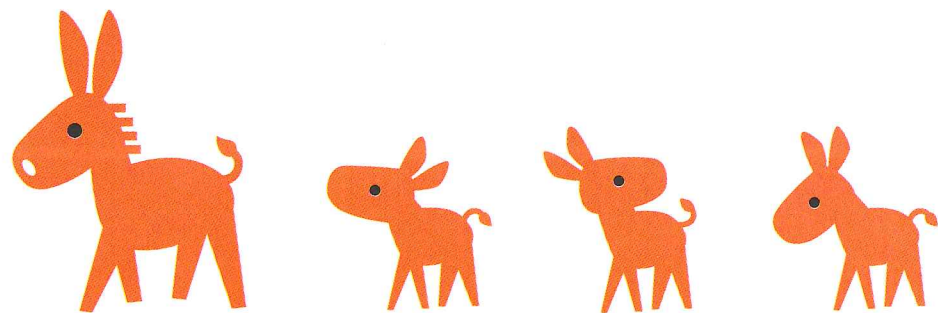
④治省会（特別養護老人ホーム桃の木・グループホームユリの花）

⑤西寿会（特別養護老人ホームはまなす荘・グループホームはまなす等）

⑥愛児福祉会（デイサービスセンター三愛・グループホーム三愛園） ※順不同

◇申込先：深浦町地域包括支援センター ☎（0173）74-4421）

または、キャラバン・メイト配置施設等へ直接お問合せください。



10 認知症に関連するホームページ等の紹介

◇厚生労働省／認知症の取り組み

www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/dementia

◇認知症の人と家族の会

www.alzheimer.or.jp

支部の一覧や活動資料、関連情報などがあります

◇認知症情報サイト（国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター）

monowasure.org

一般の方、医療関係の方、認知症疾患医療センターの方に向けた情報があります

◇認知症介護情報ネットワーク（DCnet）

www.dcnet.gr.jp/about/

認知症を正しく理解するための基礎知識の紹介や介護の事例を紹介しています

◇認知症スタジアム

dementia.or.jp/

認知症に関するイベントや本、ニュースなど、さまざまな情報があります

◇イーローゴ ネット（e-65.net）

www.e-65.net/

「医学からみた認知症」や「いろいろな支援」などすぐに活用できる情報があります

◇WAM NET（独立行政法人 福祉医療機構）

www.wam.go.jp

介護・福祉・医療などの制度解説閲覧や介護サービス事業者の検索などができます

深浦版 認知症ケアパス

知って安心！「ふかうら認知症お助け帳」

～「認知症と向き合い 地域で見守り
支えるまち」を目指して～

発行：深浦町地域包括支援センター

平成29年3月

〒038-2324 青森県西津軽郡深浦町大字深浦字苗代沢84-2

TEL 0173-74-4421 FAX 0173-74-2400